

川崎市総合計画第1期実施計画 政策体系図

基本政策	政策	施策	事務事業(○は本計画に掲載している主な事務事業)
	政策 4-9	戦略的なシティプロモーション	
		施策 4-9-1	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
			○ シティプロモーション推進事業
			○ 国際交流推進事業
			国際施策推進事業
			交流推進事業
			○ 国際交流センター管理運営事業
			○ 市民文化大使事業
		施策 4-9-2	川崎の特性を活かした観光の振興
			○ 観光振興事業
			○ 産業観光推進事業
			○ 市制記念花火大会事業
			○ 競輪場整備
			○ 競輪開催・運営
			競馬事業の運営

施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要							
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり					
	政策(2層)	戦略的なシティプロモーション			計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	①	市に魅力や良いイメージがあると感じている人の割合	40.7%	38.3%	50.0%	
		②					
施策(3層)	施策コード	施策名					
	40901000	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成					
担当	組織コード	所属名					
	170700	総務企画局シティプロモーション推進室					
関係課	総務企画局総務部庶務課、市民文化局市民生活部(交流推進担当)、市民文化局市民文化振興室						
施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> ●本市に対する都市イメージは10年前と比較し上昇していますが、今後もより一層都市イメージの形成・向上を図るため、藤子・F・不二雄ミュージアムや川崎フロンターレ、等々力緑地、工場夜景など、本市の多面的な魅力を活かしたイメージ戦略を進めます。 ●東京2020オリンピック・パラリンピックの開催、羽田空港の更なる国際化などによる、新たなビジネスチャンスの活用、観光・商業の振興を図るため、ブランドメッセージ等を効果的に用いて、国内外に向けたさまざまな情報発信を戦略的に行います。 ●市民の情報取得手段が新聞、テレビのほかインターネットやソーシャルメディアなど多様化する中で、媒体や発信手法の特性を踏まえた、市民にしっかりと情報が届く、効率的・効果的な情報発信が必要です。さまざまなメディアの効果的な活用、パブリシティ活動(メディアへの広報活動)とともに、口コミなどによる、市民自らの情報発信力を活かす取組を展開します。 ●グローバル化が進展する中、世界における本市の存在感を高めるため、これまで良好な関係を築き上げてきた海外都市とお互いの強みや特性を活かした交流を推進し、都市の魅力の向上を図ります。 						
直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める						

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1	シビックプライド指標 市民の市に対する「愛着」に関する平均値	6.0	目標値①	6.06	6.1	点	
		指標の説明	H26	実績値②	5.9	5.5		
				達成率(②/①)	97.4%	90.2%	↑	
			指標達成度 ※1	C	C	増減		
	2	シビックプライド指標 市民の市に対する「誇り」に関する平均値	5.0	目標値①	5.06	5.1	点	
		指標の説明	H26	実績値②	4.9	4.9		
			達成率(②/①)	96.8%	96.1%	↑		
		指標達成度 ※1	C	C	増減			
3	隣接都市における、川崎市に良いイメージがあると感じている人の割合	50.3	目標値①	50.7	51.0	%		
	指標の説明	H26	実績値②	42.0	35.3			
			達成率(②/①)	82.8%	69.2%	↑		
		指標達成度 ※1	C	C	増減			
数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	ブランドメッセージの認知度	都市イメージ調査において、川崎市のブランドメッセージ(ロゴ)を掲示し、「川崎市のブランドメッセージのロゴを見たことがありますか」という質問に対して「見たことがある」と答えた人の割合		実績	-	38.8	59.5	%
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		<ul style="list-style-type: none"> ●人口150万人の突破を記念したマークの作成・周知活動、4,000人の市民の笑顔の写真をつないだビッグフラッグの作成、かわさきにちなんだ川柳の募集(7,500人以上の応募)、市内様々な団体や学校の協力による花展の実施など、記念事業を実施し、本市の都市イメージの向上につながりました。 ●ブランドメッセージについて、中学校美術部と連携した大型作品の掲出、川崎市出身バンドで市民文化大使に就任したSHISHAMOと連携したポスター作成・掲出、市内書店と連携したブックフェアの実施等の取組を通じて、認知度の向上に努めた結果、都市イメージ調査で川崎市民の59.5%(平成28年度調査では、38.8%)がロゴを見たことがあると回答するなど、認知度が上昇しました。 ●企業と連携した本市の魅力発信ポスターを市内1,000箇所掲出することで、本市の多彩な魅力のPRにつなげることができました。 						
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<ul style="list-style-type: none"> ●都市イメージ調査によると、市民による「川崎市のイメージ」、「愛着」、「誇り」のいずれも居住20年未満の市民の数値が平均より低いこと、また、40代までの女性の数値が特に低いこと(本市に良いイメージを持っている割合:全市平均49.2%、40代までの女性38.5%、愛着5.2、誇り4.3)、さらに北部地域住民の「愛着」「誇り」の平均数値が南部地域住民平均より約0.3ポイント低いことが挙げられます。 ●市民が「川崎市のイメージを規定しているキーワードとして「工業、公害、工場」、「治安が悪い・ガラが悪い」が上位を占めており、イメージの源泉を「昔ながらのイメージ」としています。さらに、北部地域住民や、40代以上の多くの方が本市のイメージを「工業」と想起しており、一定の地域・世代において、古くからの本市のイメージを保持している層がいることがわかります。 ●隣接都市において本市のイメージを良いと感じる人の割合は、平成26年度に50.3%であったのが、平成27年度43.3%、平成28年度42.0%、平成29年度35.3%と下がってきており、平成27年度の各種事件・事故に伴い悪化したイメージが払拭できていないと考えられます。また、市民が「川崎市のイメージ」を良いと感じる割合は「居住区のイメージ」を良いと感じる割合より低くなっていることから、居住区以外の市の魅力が市民に十分に伝わっていない可能性があります。このことを踏まえると、隣接都市においても本市の魅力が十分に伝わっていないために、都市イメージが低くなっていると考えます。 						

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	40901010	その他	戦略的な情報発信等により、市民のシビックプライドの醸成及び対外的な都市イメージの向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●「第2次シティプロモーション推進実施計画」の検討・策定 ●国内外に向けた、各種メディアの効果的活用によるシティプロモーションの推進 ●ブランドメッセージ等を活用した効果的な情報発信及び民間活力と連携したPR事業の実施 ●都市ブランド推進事業の実施 	40,401	33,573	4	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					49,264	43,965			
					35,308	34,651			
2	40901020	イベント等	海外からの視察受入や国際交流協会との連携により、行政だけでなく市民による国際交流を促進します。	●クローチア・リエカ市姉妹都市提携40周年記念事業の実施	32,691	31,536	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					38,514	31,162			
					52,947	42,599			
3	40901050	施設の管理・運営	市民の国際理解の増進及び国際友好親善の発展等に寄与するため、「国際交流センター」を運営します。	●国際交流に関する研修会や行事等の開催	194,917	187,152	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					192,174	181,126			
					170,023	168,113			
4	40901060	その他	文化芸術・スポーツ分野で活躍する本市にゆかりのある方々を市民文化大使として任命し、国内外での活動で連携することで、本市の魅力やPR、イメージアップを図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●第8期市民文化大使の任命(11組) ●市民文化大使に個々の活動や、市の事業への協力による川崎市のアピールやイメージアップなどの貢献 	1,451	646	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					1,216	730			
					2,134	641			
5									
6									

4 施策の達成状況

施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	C

5 今後の方向性

今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40901010	シティプロモーション推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	170700	総務企画局シティプロモーション推進室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 <small>(法令・要綱等)</small>								
総合計画と連携する計画等	シティプロモーション戦略プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	1(3) 市民との積極的な情報共有の推進			1 効果的な情報発信の取組推進					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	40,401	33,573	49,264	43,965	49,264	35,308	34,651
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	309	-	605	-	605	292	-
		一般財源	40,092	-	48,659	-	48,659	35,016	-
人件費※ B			38,584	38,584	39,936	39,936	39,936		
総コスト(A+B)			87,848	82,549	89,200	75,244	74,587		
人工(単位:人)			4.55			4.8			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 戦略的なシティプロモーション 施策 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成 直接目標 市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、海外を含む市外の方
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	戦略的な情報発信等により、市民のシビックプライドの醸成及び対外的な都市イメージの向上を図ります。
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	本市の多様な魅力を様々なメディアやブランドメッセージを効果的に活用し、市内外、更には海外に情報発信します。民間活力を活かした地域資源の発掘や新たな魅力作り、連携等により、川崎の魅力をより高め、市民のシビックプライドを醸成します。
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「第1次シティプロモーション推進実施計画」に基づくシティプロモーションの推進 ②「第2次シティプロモーション推進実施計画」の検討・策定 ③国内外に向けた、各種メディアの効果的活用によるシティプロモーションの推進 ・市のPR冊子の作成・頒布 ・動画の効果的な活用 ④ブランドメッセージ等を活用した効果的な情報発信及び民間活力と連携したPR事業の実施 ⑤都市ブランド推進事業の実施 ⑥人口150万人突破を記念した各種事業の実施
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	③国内外に向けた、各種メディアの効果的活用によるシティプロモーションの推進 ・市のPR冊子の作成・頒布【削除】 ・動画の効果的な活用

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	③市のイメージアップ、シティプロモーションに繋がる広報誌として平成28年度にリニューアルした市勢要覧にPR冊子を統一し、平成29年度は30,000部作成(平成28年度は、15,000部)したほか、川崎駅北口オープンにあわせ動画3本制作、さらに市民からPR映像を募集しコンテストを実施し、市内各所で放映しました。 ④ブランドメッセージについて、中学校美術部と連携した大型作品の掲出、川崎市出身バンドSHISHAMOと連携したポスター作成・掲出、市内書店と連携したブックフェアの実施などを行いました。 ⑤企業と連携した本市の魅力発信ポスターを制作し、市内1,000箇所掲出しました。 ⑥都市ブランド推進事業7事業を実施しました。 ⑥人口150万人を突破したことを記念したマークの作成・周知活動、4,000人の市民の笑顔の写真をつないだビッグフラッグの作成、かわさきちなんだ川柳の募集(7,500人以上の応募)、市内様々な団体や学校の協力による花展の実施など、記念事業を実施しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	シビックプライド指標 市民の市に対する「愛着」に関する平均値 説明 都市イメージ調査において「愛着」に関して3つの質問項目を設け、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、各項目の平均値を得点として算出	目標		6.06	6.1	点
		実績	5.8	5.9	5.5	
2 成果指標	シビックプライド指標 市民の市に対する「誇り」に関する平均値 説明 都市イメージ調査において「誇り」に関して3つの質問項目を設け、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、各項目の平均値を得点として算出	目標		5.06	5.1	点
		実績	4.9	4.9	4.9	
3 成果指標	隣接都市における、川崎市に良いイメージがあると感じている人の割合 説明 都市イメージ調査において、「川崎市のイメージについて、どのように思いますか」という質問に対して、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、隣接都市居住者のうち6点~10点を選んだ割合	目標		50.7	51.0	%
		実績	43.3	42.0	35.3	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	市の魅力や施策・取組等についての情報が市民等に十分届いていない状況にあるため、効果的な情報発信等により、都市イメージの向上及びシビックプライドの醸成を行う必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成29年度：都市ブランド推進事業において、ブランドメッセージの積極的な使用を定めるなど、要綱を改定しました。 SNSを活用した市の魅力発信を職員が曜日ごとに担当する形に改め、多様な観点からの情報発信を実施しました。 平成28年度：関連部署の連携を強化し、各職位毎に必要な研修、効果的な時期等を検証し、研修の体系化を行いました。 メディアコーディネーターを活用した研修や各事業の企画段階からの積極的な支援を行い、パブリシティ獲得に努めました。 民間活力を生かしたイメージアップ事業を都市ブランド推進事業と改め、シティプロモーション戦略プランの目標であるシビックプライドの醸成を目的の一つとして定めたほか、テーマを設けるなど、都市ブランド強化に向けた制度改正を行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市の魅力や施策・取組等についての情報は市民等に十分に届いていない状況にあるため、引き続き効果的な情報発信等により、都市イメージの向上及びシビックプライドの醸成を行う必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	ブランドメッセージの認知度は上がっているものの、成果指標向上まではつながっていません。成果指標「愛着」「誇り」の数値向上のため、都市イメージ調査のクロス集計をはじめより詳細な分析を行い、効果的な具体的な施策を実施していく必要があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	ブランドメッセージについては、周知度を高める事業手法等について継続して見直し等を進めています。職員の広報力向上を目指し、新たなテーマによる研修等を実施しました。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40901020	国際交流推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	171100	総務企画局総務部庶務課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	イベント等	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、文化芸術振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	32,691	31,536	38,514	31,162	36,926	52,947	42,599
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	18,324	-	18,942	-	18,942	19,563	-
	一般財源	14,367	-	19,572	-	17,984	33,384	-	
人件費※ B			18,826	18,826	18,054	18,054	18,054		
総コスト(A+B)			57,340	49,988	54,980	71,001	60,653		
人工(単位:人)			2.22		2.17				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	海外都市が持つ特性を活用し、お互いのメリットを明らかにした互惠関係が構築できる交流事業を実施するとともに、地域における国際交流を推進します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	姉妹友好都市提携から周年記念を迎える時期を捉えて、今後どのような分野で交流をより進めていくか確認書などで明らかにしています。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①海外からの視察受入や(公財)国際交流協会と連携した国際交流の推進 ・クアアチア・リエカ市姉妹都市提携40周年記念事業	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 リエカ市との周年記念事業については、7月に代表団をリエカ市へ派遣するとともに、11月にはリエカ市代表団を受入れ、記念コンサート等を実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	本市における外国人住民人口は4万人に迫り、また、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、外国人観光客等の本市を訪れる外国人の増加が見込まれることから、これまで以上に本市の国際化の取組を進めていく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25: 韓国富川市との職員相互派遣について、派遣及び受入を毎年実施していたものを、経費や効果の点から、「職員相互派遣協定」を見直し、隔年ごとに実施することにしました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けて更なる訪日外国人旅行者の増加が見込まれ、また、市内外国人市民も増加・多様化しており、本市が進める国際施策の推進には市民、市民団体等を含めた市全体での取組が必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	姉妹・友好都市等との継続的な交流を通じて、地域における国際交流が推進されました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	交流事業については、相手方との調整により事業内容やスキームが決定するため、引き続き事業手法等について検討を行いながら、効果的・効率的に事業を実施していきます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	今年度のクロアチア・リエカ市との姉妹都市提携40周年記念事業においては、リエカ市庁舎前のメインストリートで本市を紹介する写真展を開催するなど、一定程度の都市イメージの向上への貢献がありました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	今後とも、それぞれの都市が持つ特性を活用し、お互いのメリットを明らかにした互恵関係が構築できる交流事業を実施することにより、地域における国際交流を推進していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40901030	国際施策推進事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	171100	総務企画局総務部庶務課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成28年度	平成37年度		—	政策推進計画等(策定・進行管理)				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	4,000	3,996	281	76	281	227	0
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
		一般財源	4,000	-	281	-	281	227	-
人件費※ B			2,374	2,374	2,746	2,746	2,746		
総コスト(A+B)			2,655	2,450	3,027	2,973	2,746		
人工(単位:人)			0.28		0.33				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	戦略的なシティプロモーション 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成 市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業、職員	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	国際施策推進プランの的確な推進を図り、真のグローバル都市川崎をめざします。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎市国際施策推進委員会を設置し、プランの進捗管理を実施します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「国際施策推進プラン」の推進と進捗管理 ②第2期実行プログラムの策定	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①の国際施策推進プランについては、国際施策推進委員会を2回開催し、推進と進捗管理を行う予定でしたが、同幹事会の開催により、具体的な議論ができたため、1回の開催となりました。 ②の実行プログラムについては、総合計画との整合を図りながら策定しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	川崎市国際施策推進委員会の開催件数		目標	/	2	2	回
	説明	プランの進捗管理を行う川崎市国際施策推進委員会の開催件数	実績	0	2	1	
2			目標	/			
	説明		実績				
3			目標	/			
	説明		実績				
4			目標	/			
	説明		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	訪日外国人旅行者の増加や国際的な都市間競争の激化、外国人市民の増加と多様化など、グローバル化に伴う新たな課題への取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 多文化共生分野も含めた総合的な国際施策を推進するため「川崎市国際施策推進プラン」を策定しました。 H24年度: 庁内各局で個別に行われている国際関連事業を全庁的な観点に立って整合性を図りながら効果的に実施していくため、「国際施策展開の基本的な考え方」(庁内向け・国際展開分野のみ)を作成しました。 H23年度: 庁内の国際関連事業を所管する課で情報共有等を行う「川崎市国際施策調整会議」を設置・開催しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けて更なる訪日外国人旅行者の増加が見込まれ、また、市内外国人市民も増加・多様化しており、課題解決に向けては、市民や市民団体を含め、本市全体で取り組む必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	国際施策推進プランの進捗を適正に管理することにより、本市国際施策が総合的に推進されました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	本市国際施策の着実な推進にあたっては、民間事業者等に委託することなく、行政が進捗管理を行う必要があります。引き続き、国際施策推進委員会・同幹事会を通じて情報共有・庁内調整等を実施し、効果的・効率的に事業を推進していきます。	
施策への貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 国際施策を総合的に推進することにより、市内外へ本市の多様な魅力や強みなどをアピールするなど、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
		今後とも川崎市国際施策推進委員会を通じてプランの進捗管理を適正に行うとともに、情報共有や連携、課題への対応を図り、真のグローバル都市川崎をめざします。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40901040	交流推進事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	251000	市民文化局市民生活部(交流推進担当)							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	イベント等	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	文化芸術振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	28,867	27,732	28,599	27,459	28,599	28,145	27,478
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	1,575	-	1,564	-	1,564	1,572	-
	一般財源	27,292	-	27,035	-	27,035	26,573	-	
人件費※ B			5,088	5,088	4,576	4,576	4,576		
総コスト(A+B)			33,687	32,547	33,175	32,721	32,054		
人工(単位:人)			0.6		0.55				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	戦略的なシティプロモーション 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成 市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	本市及び友好自治体の市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市と友好自治体の関係にある都市との交流を深め、本市の都市イメージの向上を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	本市と国内友好自治体の次代を担う子どもたちが一堂に会する場を提供し、相互理解と親善を深めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	友好自治体交流会の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 本市の魅力PRできる施設見学や参加児童の交流を盛り込んだ友好自治体交流会を8月に実施しました。友好自治体及び本市の子ども37名が参加し、相互理解と友好親善を深めることができました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	交流事業の実施にあたっては、各自治体の厳しい財政状況のもと、その事業の効果が具体的に見えることが求められてきています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 友好自治体の子どもの交流事業実施において、参加した子どもの送迎方法について効率化を図るなど事業の実施方法を見直し、経費を節減しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	友好自治体と連携した交流会を実施し、参加した子ども同士での交流プログラムや市内施設見学等を行うことで、本市のイメージアップにつながる事業であり、継続的に実施していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	次代を担う子どもたちに本市について知ってもらうことでイメージアップを図る事業であり、参加者のアンケートや参加自治体職員からも事業継続の要望があげられています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	友好自治体交流会については、事業内容は委託化が可能ですが、大幅なコスト増が見込まれます。	

施策への 貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	

改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40901050	国際交流センター管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	251000	市民文化局市民生活部(交流推進担当)							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市国際交流センター条例								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、人権施策推進基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	2(13) 市民サービス等の再構築			4 国際交流センターのあり方の見直し					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	194,917	187,152	192,174	181,126	248,369	170,023	168,113
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	61,000	1,000	-
		その他特財	4,735	-	4,693	-	4,693	4,675	-
	一般財源	190,182	-	187,481	-	182,676	164,348	-	
人件費※ B			16,536	16,536	15,808	15,808	15,808		
総コスト(A+B)			208,710	197,662	264,177	185,831	183,921		
人工(単位:人)			1.95		1.9				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	戦略的なシティプロモーション 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成 市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本施設を拠点として、市民が国際理解を深め、市民文化の向上や国際親善の発展に寄与する社会の形成を目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理制度による運営のもと、国際理解を深める講座や国際交流を推し進める事業等を開催するとともに、国際交流に取り組む市民団体等への支援や施設の貸出を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	国際交流に関する研修会や行事等の開催	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果(Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 国際相互理解を深めるための講座を15回、外国人市民を対象としたイベント等を9回開催し、国際交流の促進を図りました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	国際理解講座の開催回数	目標		11	12	回
	説明 国際相互理解を進めるための講座の開催回数	実績	13	12	15	
2 活動指標	外国人市民対象のイベント・講座の開催回数	目標		5	5	回
	説明 外国人市民を対象としたイベント及び講座の開催回数	実績	8	7	9	
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	国際交流センターが築20年を超え、施設・設備の老朽化が進んできていることから、施設・設備の機能維持・向上に向けた定期的・計画的な管理・運営が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	・H27年度: 国際交流センターのあり方等について、庁内の検討会議を立ち上げ、検討を進めています。 ・H28年度: 国際交流センターのあり方等で検討された、駐車場の有料化、ホテル・レストランの行政財産の貸付方法の見直しなどを進めました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	国際交流センターを拠点とした国際交流の推進や国際交流活動への支援などを進めるため、継続的に実施していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	指定管理者による講座・イベント等も目標どおり実施され、多くの方に参加いただいております。事業の成果は徐々に上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	国際交流センターは指定管理者により運営されており、民間活用は既に実施されています。また、事業手法の見直しについても、29年度から駐車場有料化、ホテル・レストラン定期賃貸借建物契約が既に実施されています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	来館者数、施設の貸し出しともに高い水準を維持しており、市民レベルの国際交流の促進において、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	指定管理者による国際交流センターの運営を継続し、国際理解を深める講座や国際交流を推し進める事業等を開催するとともに、国際交流に取り組む市民団体等への支援や施設の貸出を行います。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40901060	市民文化大使事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		その他	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例								
総合計画と連携する計画等	スポーツ推進計画、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	1,451	646	1,216	730	1,796	2,134	641
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	700	-	700	-	700	600	-
	一般財源	751	-	516	-	1,096	1,534	-	
人件費※ B			1,272	1,272	0	0	0		
総コスト(A+B)			2,488	2,002	1,796	2,134	641		
人工(単位:人)			0.15			0			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 戦略的なシティプロモーション 施策 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成 直接目標 市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	川崎市にゆかりのある文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している人
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	川崎市のアピールとイメージアップに貢献していただきます。
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎市にゆかりのある文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している人を川崎市市民文化大使に認定し、個々の活動や市長の代理としての業務または市の業務などを通じて川崎市のアピールやイメージアップに貢献していただきます。
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	第8期市民文化大使の任命及び市民文化大使と連携した取組の推進
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ・第8期市民文化大使として、11組の方を任命しました(継続9組、新規2組。任期は平成29年12月1日～平成31年11月30日)。 ・市民文化大使は個々の活動や市の事業への協力により、川崎市の魅力のPRやイメージアップなどに貢献しています。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、市のPRの必要性やPR等を行う機会が増しており、現状の事業内容を維持しつつも活躍の幅を広げるよう、庁内外を問わずより一層の連携及び情報発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25年度: 東日本大震災被災者等支援基金を活用した、市民文化大使の被災地での活動に対する補助金の創設など、市民文化大使の活動の幅を広げるための見直しを行ないました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、市のPR等を行う機会が増していることから、文化芸術やスポーツ等の分野で活躍している市民文化大使に市のPRやイメージアップに関する活動をしていただく必要性はますます高まっています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果が具体的に見える事業ではなく、はっきりとした評価はできませんが、市民文化大使のそれぞれの活動や市の行事を通して市の魅力をPRしていただいているので、徐々に上がっているを選択しました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	・もともと、PR等の多くが市民文化大使自身の活動の中で行っていたものであるため市の負担は小さく、一方で市が直接実施するよりも、市民文化大使の知名度を生かして幅広く効果的に実施している事業です。 ・従来は、市民文化大使の改選時に懇親会を開催し、市民文化大使同士や市長との意見交換を行っていましたが、こうした機会を増やすことでより効果的な市のPR等に繋がるものと考えます。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり			
	政策(2層)	戦略的なシティプロモーション	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① 市に魅力や良いイメージがあると感じている人の割合	40.7%	38.3%	50.0%
		②			
施策(3層)	施策コード	施策名			
	40902000	川崎の特性を活かした観光の振興			
担当	組織コード	所属名			
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課			
関係課	経済労働局公営事業部総務課、業務課				
施策の概要	<p>●本市には、川崎大師や生田緑地をはじめ、新たな観光の目玉になった産業観光や工場夜景、カワサキハロウィンなど多くの観光資源が存在します。今後は、市内観光地の魅力やイベント、ショッピングなどの情報を効果的に発信して、本市への観光客増加と観光消費の拡大を図ります。</p> <p>●2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピックの開催を好機として捉え、多くの外国人を魅了することができるような観光資源を活用するとともに、海外の観光客の動向等を踏まえ、羽田空港からのアクセスなど本市の優位性を活かすことにより、本市を訪れる外国人観光客の増加に向けた観光施策の拡充を図ります。</p> <p>●競輪事業については、若い世代や女性などの新たなファン層を拡大するために、ガールズケイリンの開催、施設の再整備等を推進し、競輪のイメージアップを図ります。</p>				
直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1	主要観光施設の年間観光客数	1,504	目標値(a)	1,597	1,646	万人(「年」表記)	
		指標の説明	H26	実績値(b)	1,549	1,565	表記	
				達成率(b/a)	97.0%	95.1%	↑	
				指標達成度 ※1	b	b	増減	
2	宿泊施設の年間宿泊客数	178	目標値(a)	184	187	万人(「年」表記)		
	指標の説明	H26	実績値(b)	183	190	表記		
			達成率(b/a)	99.5%	101.6%	↑		
			指標達成度 ※1	b	a	増減		
3	宿泊施設の年間宿泊客数【外国人】	15	目標値(a)	16	17	万人(「年」表記)		
	指標の説明	H26	実績値(b)	20	22	表記		
			達成率(b/a)	125.0%	129.4%	↑		
			指標達成度 ※1	a	a	増減		
4	工場夜景・産業観光ツアーの年間参加者数	6,600	目標値(a)	7,000	7,200	人(「年」表記)		
	指標の説明	H26	実績値(b)	5,253	6,901	表記		
			達成率(b/a)	75.0%	95.8%	↑		
			指標達成度 ※1	c	b	増減		
数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明			実績				
2	指標の説明			実績				
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		<p>●工場夜景観光の取組は、平成20年度から全国に先駆けて川崎市をはじめ、他都市にも少しずつ波及し、平成23年2月に、川崎市、四日市市、室蘭市、北九州市の4都市で「全国工場夜景サミット」を開催した。現在、「全国工場夜景サミット」への参加は10都市まで広がっており、工場夜景観光という取組が全国的に認知度が高まっており、一定の効果があつたものと考えます。</p>						
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●観光客数は、平成29年10月「カルツツかわさき」の完成により微増していますが、一部施設の長期休館等の要因により、全体としては目標値まで達していません。</p> <p>●宿泊者数は、新規ホテルの開店などにより推計値ですが増加しています。</p> <p>●ツアー参加者数は、平成29年5月東扇島浮棧橋の利用などにより増加していますが、全体としては目標値まで達していません。なお、川崎市工場夜景を鑑賞するツアーは、近年旅行会社のツアーが多様化していることにより、川崎市観光協会が連携し参加者数を把握しているツアー以外にも横浜や東京を発着とするツアーが多く造成されていることから、実際の参加者数は大幅に上回っていると考えます。</p>						

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	40902010 観光振興事業	その他	情報発信や観光案内機能の充実等の取組を進めるとともに、外国人観光客の誘客を促進します。	●「新・川崎観光振興プラン」に基づく施策の推進及び進捗状況の検証 ●効果的な情報発信の充実 ●川崎駅北口行政サービス施設「かわさききたテラス」の供用開始 ●外国人観光客の誘客促進	62,149	60,956	3	A 貢献している	Ⅲ 事業規模拡大
					57,111	53,961			
					68,938	94,591			
2	40902020 産業観光推進事業	その他	川崎産業観光振興協議会、市観光協会、商工会議所等の関係機関と一体となって、本市の産業観光の推進及び認知度向上を図ります。	●産業観光ツアーの実施(7回実施)、及び工場夜景ツアー「川崎市民150万人突破記念クルーズ」を実施 ●中国、九州等での修学旅行誘致活動(3回実施) ●外国人向け「川崎の観光モデルコース」としての宿泊・日帰りの開発(2コース)	9,600	9,600	3	A 貢献している	Ⅲ 事業規模拡大
					8,400	8,400			
					10,950	10,950			
3	40902030 市制記念花火大会事業	イベント等	川崎の夏の風物詩として親しまれている花火大会を開催することで、「ふるさと川崎」の意識の高揚を図り、豊かな市民文化の創造をめざします。	●雷雨による荒天のため中止(協賛席販売数5,684席) ●次年度以降の安全な開催に向けた検討の実施	81,345	81,270	4	A 貢献している	Ⅱ 改善しながら継続
					81,201	81,173			
					81,201	81,193			
4	40902040 競輪場整備	施設の管理・運営	公園との一体感を感じられる空間づくりや持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくりをメインコンセプトとして、施設の再整備を行います。	●外構整備工事及び既存施設除却工事の実施・正門棟の建築 ●老朽化設備の更新工事及び維持修繕工事の実施	2,473,554	2,040,386	3	B やや貢献している	Ⅱ 改善しながら継続
					1,082,574	982,749			
					875,478	364,967			
5	40902050 競輪開催・運営	その他	競輪の効率的な事業運営を推進し、事業の収益性を高めるとともに、競輪の魅力アピールすることで誰もが楽しめる競輪場をめざします。	●全国初のGⅢナイター開催等、効果的・効率的な運営方法による競輪の開催 ●新規ファンの獲得に向けた、家族連れを対象とした「バンク内観戦や競輪初心者教室をはじめとしたファミリー向けイベント等」の実施 ●特別競輪の誘致活動の実施	18,144,749	15,537,789	3	B やや貢献している	Ⅱ 改善しながら継続
					21,326,342	20,886,181			
					20,566,286	16,033,430			
6									
7									

4 施策の達成状況			
施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	B

5 今後の方向性			
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40902010	観光振興事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	—	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、産業振興プラン、情報化推進プラン、文化芸術振興計画、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	62,149	60,956	54,427	53,961	54,427	68,938	94,591	
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	0	0	—
		その他特財	486	—	486	—	486	833	—
	一般財源	61,663	—	53,941	—	53,941	68,105	—	
人件費* B			28,408	28,408	35,360	35,360	35,360		
総コスト(A+B)			82,835	82,369	89,787	104,298	129,951		
人工(単位:人)			3.35		4.25				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	観光客等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市内への集客を推進し地域経済を活性化します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	各種観光事業や多様な広報戦略に取り組むとともに、観光協会の組織・活動に対する支援を行うなど、本市の観光施策を効果的に実施します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「新・川崎観光振興プラン」に基づく施策の推進及び進捗状況の検証 ②効果的な情報発信の充実 ③川崎駅北口における魅力発信施設の供用開始 ④外国人観光客の誘客促進 ⑤かわさき市民祭りの開催	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①は概ね施策を推進 ②はホームページ内容の充実及び工場夜景等の魅力や様々なイベント情報を効果的に発信 ③は川崎駅北口行政サービス施設「かわさききたテラス」が2月17日に開設 ④は誘客促進の取組を概ね実施 ⑤は予定どおり実施、川崎市民150万人突破記念企画を実施					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	主要観光施設の年間観光客数	目標		1,597	1,646	万人 (「年」表記)
	説明 主要観光施設からの報告値等の集計	実績	1,530	1,549	1,565	
2 成果指標	宿泊施設の年間宿泊客数	目標		184	187	万人 (「年」表記)
	説明 市内主要宿泊施設の集計に基づく市内全体の宿泊施設の推計値	実績	181	183	190	
3 成果指標	宿泊施設の年間宿泊客数【外国人】	目標		16	17	万人 (「年」表記)
	説明 市内主要宿泊施設の外国人宿泊客数の集計に基づく市内全体の宿泊施設の推計値	実績	20	20	22	
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2016年(平成28年)中に神奈川県を訪れた観光客(入込観光客)の推計延人数は1億9,027万人で、2015年(平成27年)の1億9,297万人から微減したが、平成27年に次ぐ過去2番目を記録(※平成9年から集計)しており、増加傾向を維持しています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H28年度:新・かわさき観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H27年度:観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H26年度:観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、国内外の観光に関するニーズは増加する見込みです。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	国外からの宿泊者数が順調に増加しています。今後も、国外からの観光、宿泊に対するニーズは増加する見込みです。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	市が直営で行っている業務の一部を川崎産業観光振興協議会や川崎市観光協会に移行することによりコストの削減が見込まれます。	
施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	現在、実施しているツアーや外国人誘客事業、ホームページ・冊子等による情報発信等が川崎の観光魅力の向上につながっています。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の 方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III	2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、インバウンド施策等の事業規模の拡大が見込まれます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40902020	産業観光推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	—	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、産業振興プラン、文化芸術振興計画、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	9,600	9,600	8,400	8,400	9,400	10,950	10,950
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
		一般財源	9,600	-	8,400	-	9,400	10,950	-
人件費※ B			10,685	10,685	18,304	18,304	18,304		
総コスト(A+B)			19,085	19,085	27,704	29,254	29,254		
人工(単位:人)			1.26		2.2				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	観光客等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市、川崎産業観光振興協議会、川崎市観光協会、川崎商工会議所等が一体となり川崎の産業観光の推進を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市内に多数存在している生産施設や産業遺産、先端技術施設、研究開発施設などの地域資源を効果的に活用し、産業観光の取組を推進します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①産業観光ツアー、工場夜景ツアーの推進 ②全国各地への修学旅行誘致活動の展開 ③産業観光への市民参画の促進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	④「外国人向け川崎寄り道ツアー」の開発【新規】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標どおり達成できました。 ①産業観光ツアーは7回実施、工場夜景ツアーは川崎市民150万人突破記念クルーズを実施 ②中国、九州等、修学旅行誘致活動を3回実施 ③市民等で構成される川崎の産業観光を支援する会による産業観光及び工場夜景ツアーでのガイドを通年で実施 ④外国人向け「川崎の観光モデルコース」としての宿泊・日帰りの2コース開発					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	工場夜景・産業観光ツアーの年間参加者数		目標		7,000	7,200	人 (「年」表記)
	説明	工場夜景ツアー及び産業観光ツアーの参加者数の集計	実績	5,392	5,416	6,901	
2			目標				
	説明		実績				
3			目標				
	説明		実績				
4			目標				
	説明		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2016年(平成28年)中に神奈川県を訪れた観光客(入込観光客)の推計延人数は1億9,027万人で、2015年(平成27年)の1億9,297万人から微減したが、平成27年に次ぐ過去2番目を記録(※平成9年から集計)しており、増加傾向を維持しています。
事業の見直し・改善内容	実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H28年度:新・かわさき観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H27年度:観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H26年度:観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、国内外の観光に関する市民ニーズは増加する見込みです。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	民間による取り組みも含めて、産業観光、工場夜景等のツアー開催数が増加しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	市が直営で行っている業務の一部を産業観光振興協議会や川崎市観光協会に移行することによりコストの削減が見込まれています。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A 現在行っている産業観光ツアーや工場夜景ツアーなどが川崎の観光魅力の向上につながっています。



改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III 2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、インバウンドを含む産業観光推進事業の規模の拡大が見込まれます。また、開発した外国人観光客向け「川崎の観光モデルコース」を旅行会社等へプロモーションを行います。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40902030	市制記念花火大会事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	イベント等	—					
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等									
産業振興プラン、文化芸術振興計画、新・かわさき観光振興プラン									
行財政改革プログラムに関連する課題名									
改革項目									
課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	81,345	81,270	81,201	81,173	81,201	81,201	81,193	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
		一般財源	81,345	-	81,201	-	81,201	81,201	-
人件費※ B			9,752	9,752	10,650	10,650	10,650		
総コスト(A+B)			90,953	90,925	91,851	91,851	91,843		
人工(単位:人)			1.15		1.28				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	主に川崎市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	花火大会を安全に楽しんでもらうとともに、「ふるさと・川崎」の意識を醸成しながら、市内観光産業の活性化を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	花火を楽しんでもらえるよう打上内容等に工夫を凝らすとともに、事故のないよう観客動線の確保や警備を充実させて安全に開催します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①観客の安全確保及び継続可能な花火大会の企画の立案・実施(有料協賛席販売数:5,250席以上) ②民間事業者との連携による安全で楽しい大会の運営計画の策定と実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり						
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	今年度の第76回川崎市制記念多摩川花火大会は、雷雨による荒天のため中止となりましたが有料協賛席は完売しました。また、事前に中止基準を明確化するなどの対策を講じていたため、河川敷の観覧者を安全に退出させることができました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)			目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	有料協賛席チケット販売数			目標		5,200	5,250	席
	説明	花火大会当日の会場内有料協賛席チケットの販売数		実績	5,137	2,822	5,684	
2				目標				
	説明			実績				
3				目標				
	説明			実績				
4				目標				
	説明			実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	東京会場(左岸側)は再開発の完成によりますます観客が増加傾向にあり、周辺環境保全や安全に最大限留意しつつ、対応を図っていく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 以前は、東京会场上流側緩衝地帯については観客の立ち入りを禁止していましたが、東京会場での観客増に対応するため、保安と周辺住民の住環境保全に留意しつつ、その一部に上野毛B地区有料協賛席を新たに設定しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	花火大会に対するニーズは協賛席の販売数増からも明らかです。遊園地等の囲まれた施設や臨海部で純民間による花火の打ち上げはあるものの、オープンな空間での純民間による花火大会は警備や交通規制への課題があり実施が困難な状況があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	協賛席の販売数増など、順調に成果が上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	既に運営主管業務を委託し、協賛席の運営は運営主管が行うことでリスクを取らないで収益を得る枠組みで運営しています。事業手法については安全対策費用が膨らむなか常に見直して効率的な運営をしています。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A



改善 (Action)

今後の事業 の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載				
	40902040	競輪場整備				有				
担当	所属コード	所属名								
	286100	経済労働局公営事業部総務課								
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)					
	—	—		施設の管理・運営	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 富士見周辺地区整備基本計画、川崎競輪場再整備基本計画									
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン、スポーツ推進計画、新・かわさき観光振興プラン									
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名						
	2(8) 特別会計の健全化			1 競輪事業特別会計の健全化に向けた取組の推進						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度				
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)		
	財源内訳	事業費 A		2,473,554	2,040,386	1,082,574	982,749	853,606	875,478	364,967
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	0	—
		市債	0	—	0	—	0	0	0	—
		その他特財	2,323,554	—	1,082,574	—	853,606	875,478	—	—
	一般財源	150,000	—	0	—	0	0	0	—	
人件費* B				10,515	10,515	9,901	9,901	9,901		
総コスト(A+B)				1,093,089	993,264	863,507	885,379	374,868		
人工(単位:人)				1.24		1.19				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	戦略的なシティプロモーション 川崎の特性を活かした観光の振興 市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	競輪場施設	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	「公園との一体感を感じられる空間づくり」や「持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり」をメインコンセプトとした、施設の整備を行います。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎競輪場再整備基本計画に基づき、施設の再整備に取り組みます。 既存施設の設備更新工事、維持修繕工事を実施します。 施設整備・維持管理に必要な競輪施設等整備事業基金の積立・取崩を計画的に実施します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①外構整備工事及び既存施設除却工事の実施・正門棟の建築 ②老朽化設備の更新工事及び維持修繕工事の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	施設の再整備については、外構整備及び正門棟の建築を行う整備工事の入札不調に伴い工期に変更が生じたため、年度内に整備を完了させることができませんでした。外構整備及び正門棟の建築工事については、9月までに整備します。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	入場者数や売上が減少傾向にあることから、施設の収容人員や投票所の最適化を図る必要があります。また、基金の範囲内で、再整備基本計画のコンセプトの実現に向けた再整備の推進や安定的な競輪開催に向けた施設の整備・補修を行うため、仕様の見直しや整備方法の検討を行いながら事業を進める必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度:競輪事業特別会計全体の収支を勘案し、基金の範囲内で整備事業を実施できるよう工事の平準化を図りました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	再整備基本計画のメインコンセプトである「公園との一体感を感じられる空間づくり」、「持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり」を行うことにより、富士見周辺地区の魅力を高め、まちづくりに貢献しています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	再整備により、お客様の観戦環境の向上を図りました。また、競輪場敷地の公園への一部返還に向け、既存施設の除却工事を完了し、競輪場の新入場門棟改築及び外構工事を平成30年度完成のスケジュールで開始しました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	再整備基本計画に基づく整備については、平成35年度まで行うよう工事の平準化を図りました。今後、新入場門棟改築や外構工事、バンク内広場改修工事、メインスタンド3階内装改修工事等がありますが、引き続き、基金の範囲内で、効果的・効率的な施設となるよう仕様の見直しや整備方法の検討を行う必要があります。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40902050	競輪開催・運営				有			
担当	所属コード	所属名							
	286300	経済労働局公営事業部業務課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 自転車競技法								
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	18,144,749	15,537,789	21,326,342	20,886,181	17,246,600	20,566,286	16,033,430
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	18,144,749	-	21,326,342	-	17,246,600	20,566,286	-
	一般財源	0	-	0	-	0	0	-	
人件費※ B			118,635	118,635	102,003	102,003	102,003		
総コスト(A+B)			21,444,977	21,004,816	17,348,603	20,668,289	16,135,433		
人工(単位:人)			13.99			12.26			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	戦略的なシティプロモーション 川崎の特性を活かした観光の振興 市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	競輪場施設、競輪場来場者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	競輪の効率的な事業運営を推進し、事業の収益性を高めることにより、安定的に一般会計への繰出を行います。競輪の魅力アピールすることで誰もが楽しめる競輪場を目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	平成29年度から導入した包括的な業務委託により、柔軟かつ効果的・効率的な事業運営によるトータルコストの削減、ファンサービスの向上などを通じた来場者数・車券売上上の増進、既存施設の有効活用による収入増、市民利用・多目的利用の一層の推進を図り、競輪事業の効果的・効率的な実施及び市民に親しまれる競輪場の確立を目指します。また、特別競輪の誘致活動を推進します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①効果的・効率的な運営方法による競輪の開催 ②競輪女子会、ガールズケイリンやバックヤードツアー等の実施による新規ファンの獲得に向けた取組の推進 ③特別競輪の誘致活動の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①今年度から導入した包括的な業務委託により、事業の効率化を図るとともに各種サービス面の充実を図り、効果的な運営を行いました。また、全国で初めてGⅢをナイターで開催し収益向上を図りました。さらに、他場の昼間開催と重ならないよう本場ナイター発走時刻の調整を行うとともに、他場の状況や売上分析等も行い、効果的かつ収益性の高い日程で開催しました。 ②来場した家族連れを対象にしたバンク内観戦や競輪初心者教室の開催を行いました。また、各競輪場の食材を使用したパーベキュー、お菓子つかみ取り、花火コーナーの設置など新たなファミリー向けのイベントを実施したことにより競輪場のPR及び新規ファン獲得につなげることができました。 ③平成31年度特別競輪開催に向け開催申請資料の提出及び競輪関係団体に対しPRを行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	一般会計への繰出金	目標		1.7	1.9	億円
	説明 一般会計への繰出額を増加させるために様々な売上向上策や経費削減策に取り組み必要があります。	実績	1.3	1.7	2.5	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	趣味やレジャーの多様化、ファンの高齢化などにより車券売上額は、減少傾向が続いています。全国競輪施行者協議会の通知等により相談者窓口設置等のギャンブル等依存症対策を実施しました。今後もIR法の法整備などの動向を注視する必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度:民間ノウハウを活用して、安定的な競輪事業の確立や市民に親しまれる競輪場づくりを推進するため、競輪開催業務をはじめとする多数の業務を一括して委託する包括的な業務委託導入の検討を行いました。 H28年度:包括的な業務委託の導入に向けた準備(仕様書・募集要項等の作成、事業者の公募、選定、契約に向けた調整等)を行い、受託事業者と基本協定を締結いたしました。 H29年度:全国競輪施行者協議会の通知等により相談者窓口設置等様々なギャンブル等依存症対策を実施しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	競輪事業は、都道府県及び総務大臣が指定する市町村のみが実施するものであり、競輪事業の収益は、一般会計へ義務教育施設整備事業に充てるために繰り出しています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	競輪場施設再整備による施設のコンパクト化、観戦環境の改善、特設競輪の誘致等の取組と包括的な業務委託の導入により、一般会計への安定的な繰出を行っています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	平成29年度から包括的な業務委託を導入したことにより、効果的・効率的な事業運営を行っているが、引き続き業務の見直しを行い、改善を図っていきます。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	競輪事業は、昭和24年に開設してから平成28年度までに約1,280億円を一般会計へ繰り出しており、平成29年度も一般会計へ2.5億円繰り出す予定です。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	包括的な業務委託について精査を行い、引き続き、事業の効率化や売上向上のための各種施策について改善を行い、これまでに以上に「安定的な競輪事業の確立や効率的な運営」と「市民に親しまれる競輪場づくり」を推進していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40902060	競馬事業の運営				無		
担当	所属コード	所属名						
	286100	経済労働局公営事業部総務課						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—		—	その他			
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 地方自治法第284条第2項、競馬法							
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン、新・かわさき観光振興プラン							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)
	財源内訳	事業費 A	0	0	0	0	0	0
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0
		市債	0	-	0	-	0	0
		その他特財	0	-	0	-	0	0
		一般財源	0	-	0	-	0	0
人件費※ B			2,544	2,544	1,248	1,248	1,248	
総コスト(A+B)			2,544	2,544	1,248	1,248	1,248	
人工(単位:人)			0.3		0.15			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	戦略的なシティプロモーション 川崎の特性を活かした観光の振興 市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	神奈川県川崎競馬組合	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	神奈川県と連携して神奈川県川崎競馬組合の経営を安定させて、本市への配分金が繰出しできるようにします。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	神奈川県と共同運営することを目的に設置した神奈川県川崎競馬組合を継続的に運営します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	神奈川県との連携による神奈川県川崎競馬組合の運営	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	神奈川県川崎競馬組合から本市への配分金の繰出し	目標		7,000	5,000	万円
	説明 本競馬事業における収益状況に応じた、本市への配分金の繰出し額	実績	3,000	7,000	12,000	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	相談者窓口設置等のギャンブル等依存症対策を実施しました。今後もIR法の法整備などの動向を注視する必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 12 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	競馬事業の運営体制を効率化するため、平成12年度より神奈川県と川崎市が構成団体となって、一部事務組合を設立しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	競馬事業は、地方財政寄与を目的として運営されており、神奈川県川崎競馬組合からの配分金は、本市の義務教育施設整備事業に充てられており、また、競馬法により日本中央競馬会又は都道府県、総務大臣が農林水産大臣と協議して指定するもの(指定市町村)のみができるものです。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	神奈川県川崎競馬組合から競馬事業の収益の一部を配分金として本市競輪事業特別会計を通じて、一般会計へ繰出ししています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	神奈川県と連携して、神奈川県川崎競馬組合の一層の経営効率化に取り組みます。	
施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	神奈川県川崎競馬組合から本市の配分金は、競輪事業特別会計を通じて一般会計へ繰出すことにより貢献しています。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	神奈川県川崎競馬組合が運営する競馬事業は、売上や構成団体である神奈川県及び本市への配分金ともに増加傾向にあることから、引き続き、神奈川県と連携して神奈川県川崎競馬組合の継続的な経営の安定を図っていきます。